

稲刈り跡の排水対策徹底を！ ファイバースノウの播種準備を進めましょう！

1. 排水対策で収量・品質UP！

麦作にとって、排水対策は最も重要な技術です。播種時の土壤水分を低くすることで、①播種・出芽の精度向上、②除草剤の効果安定、③麦の生育改善や収量・品質の向上が期待できます。

2. 溝掘いをいち早く行い水田を乾かしましょう！

稲刈り後、ほ場が乾くのを待ち、条件が良いタイミングを逃さずに、排水溝（明渠）を設置しましょう。

10月上旬までを目途に作業を行いましょう。

ほ場表面の滞水が目立つ場合は、まず額縁明渠を設置し、排水してください。排水後、速やかに明渠を完成させましょう。



オーガ式溝掘機等で
しっかりした排水溝を作る

3. 排水溝(明渠)は水尻まで流れるように！

溝の繋ぎ目を連結する、水尻に向かって深くする等で、水口から水尻までスムーズに排水されるように設置しましょう。



排水溝は尻水戸にしっかり繋ぐ

4. 土壌の酸度矯正も忘れずに！

麦類、特に大麦は酸性に弱い作物です。土壌pH6.5 を目標に、アルカリ資材を散布し、酸度矯正をしましょう。苦土石灰の場合、100kg/10a が目安です。

5. 大麦の播種適期は 10 月 15～31 日頃！

播種時期が適期から遅れると初期生育が不足し、収量低下につながります。遅くとも 11 月初旬には播き終わりましょう。また、播種時期が早すぎると、生育過剰による倒伏や凍霜害、黒節病の発生が助長されるため、適期に播種しましょう。

6. 播種が遅れた場合は播種量を増やす！

播種が遅れた場合や排水不良のほ場では、播種量を 1kg/10a 程度増やし、苗立数を確保しましょう。目標苗立数は 150～200 本/m²です。

(条間 25cm の場合、1m に 40～50 本程度が目安)



1 m に 40～50 本の苗立ちが目安

播種時期別 播種量の目安

播種時期	播種量(/10a)
10月15～31日	8～9 kg
11月1日以降	9～10 kg

注意！

- ☞ 複年栽培の場合は、播種が遅れた場合でも播種量を過度に増やすと莖数が過多になり、品質低下に繋がります。
- ☞ 遅播きの場合、過度に施肥量を増やすと、倒伏の恐れがありますので避けましょう。